

次期総合戦略（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の 策定について

令和6年9月25日（水）

政策推進部 企画政策課



目次

- 01 総合戦略について
- 02 佐賀市総合計画について
- 03 次期総合戦略について
- 04 今後のスケジュールについて
- 05 意見交換について

01 総合戦略とは／総合戦略の概要（国と地方のデジタル田園都市国家構想総合戦略）

デジタル田園都市国家構想総合戦略とは

人口の現状と社会情勢が大きく変化する中において目指すべき中長期的な方向や、構想の実現に向けて今後の目標や施策の方向性等を提示するもの

基本的な
考え方

- 「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、優良事例の横展開を加速

【国】

地方の
社会課題解決

- 地方に仕事をつくる
- 人の流れをつくる
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 魅力的な地域をつくる

国の総合戦略を勘案

【県】 地方版総合戦略の策定



県の総合戦略を勘案

【市】 地方版総合戦略の策定

地域が抱える社会課題の解決のため
地域が目指す理想像を再構築して策定

デジタル実装の基礎条件整備

デジタル技術の活用によって、地域の個性を生かしながら、地方を活性化し持続可能な経済社会を実現する。

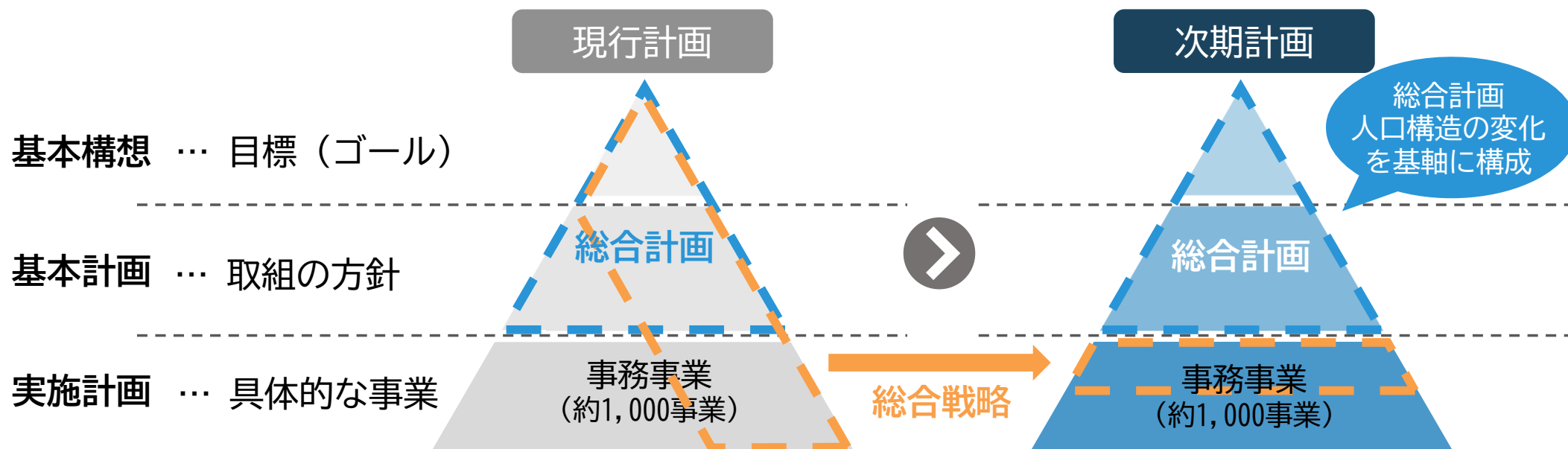
- デジタル基盤整備
- デジタル人材の育成・確保
- 誰一人取り残されないための取組

01 総合戦略とは／次期総合戦略の構成（総合計画との関係）

策定のポイント

【総合計画】：人口構造をはじめとした将来の社会変化を踏まえ、目指すまちの姿の実現に向けて何をしなければならないのか、バックカスティングの考え方で方針を定めた。

【総合戦略】：総合計画の実施計画として位置付け、取り組む事業を選定・体系化
16年後の未来に向けて、最初の4年間に重点的に取り組むべき事業を取りまとめる。

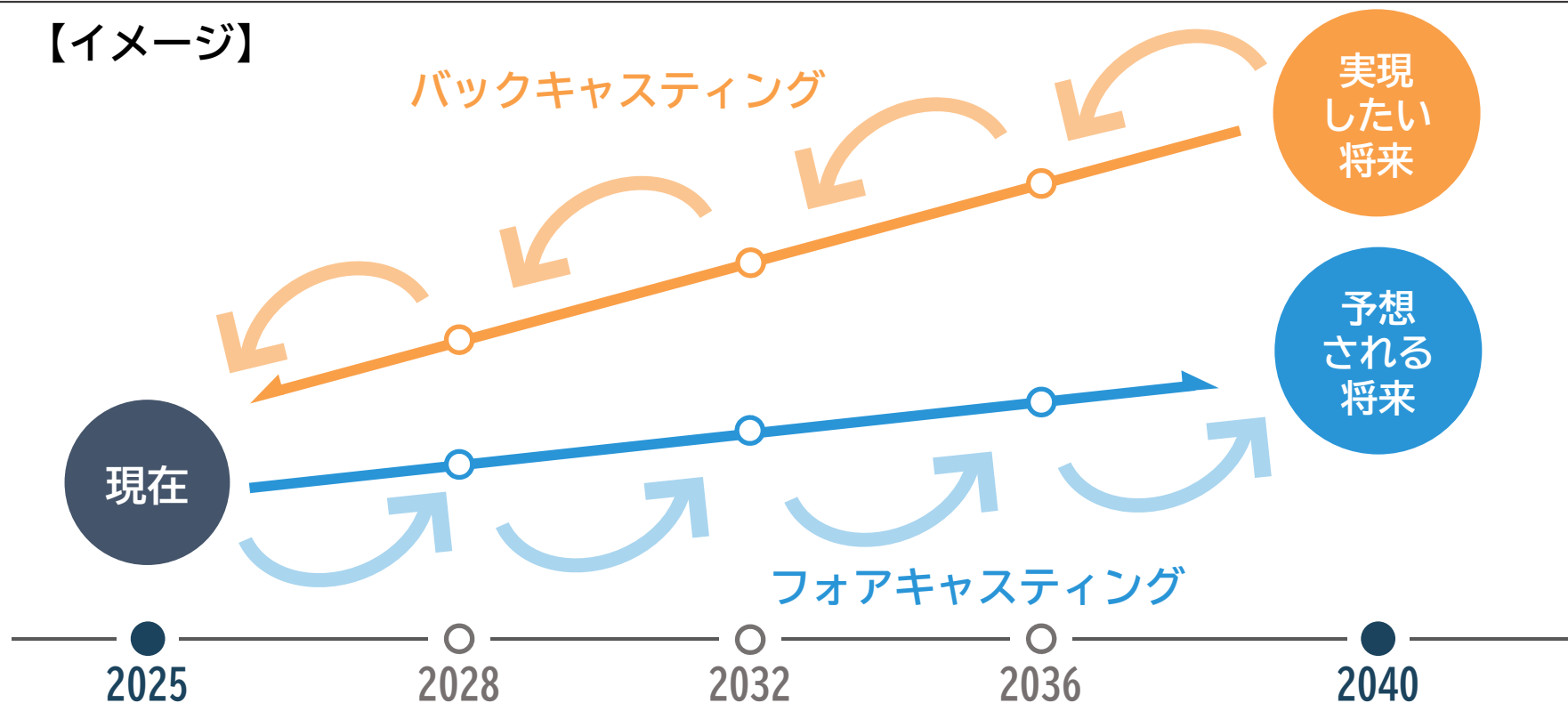


02 佐賀市総合計画／バックキャストिंगの発想

ポイント

- 人口減少局面では社会全体が縮小することが想定されることから、実現したい将来に向けて、各時点において何をしなければならないのかという「バックキャストिंग」の考え方が必要
- 現行の総合計画と同様、過去からの課題の積み上げを行う「フォアキャストिंग」の考え方に加えこれまでになかったバックキャストिंगの発想をもって総合計画策定を行った。

【イメージ】



02 佐賀市総合計画／人口ビジョン | 人口ビジョンの趣旨

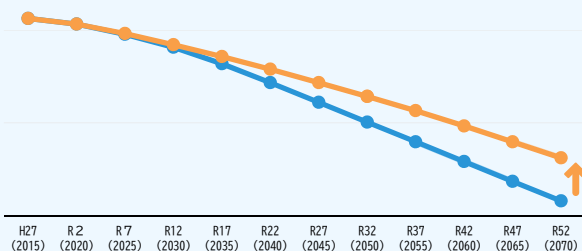
人口推計

- 市の人口ビジョンや国立社会保障・人口問題研究所は、市の人口減少や人口構造変化を推測
- 特に2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となり、人口構造の変化が顕著
- 仮に出生率が回復したとしても、人口減少は止まらず、ある程度の人口減少は防げない。

人口減少は避けられない未来と認識し、
「少子化の課題」と「人口減少による課題」は切り分けて考える

政策を打つことで改善する。
(人口減少の幅を上向かせる。)

01



「発想を転換」した
まちづくりを推進する。

02

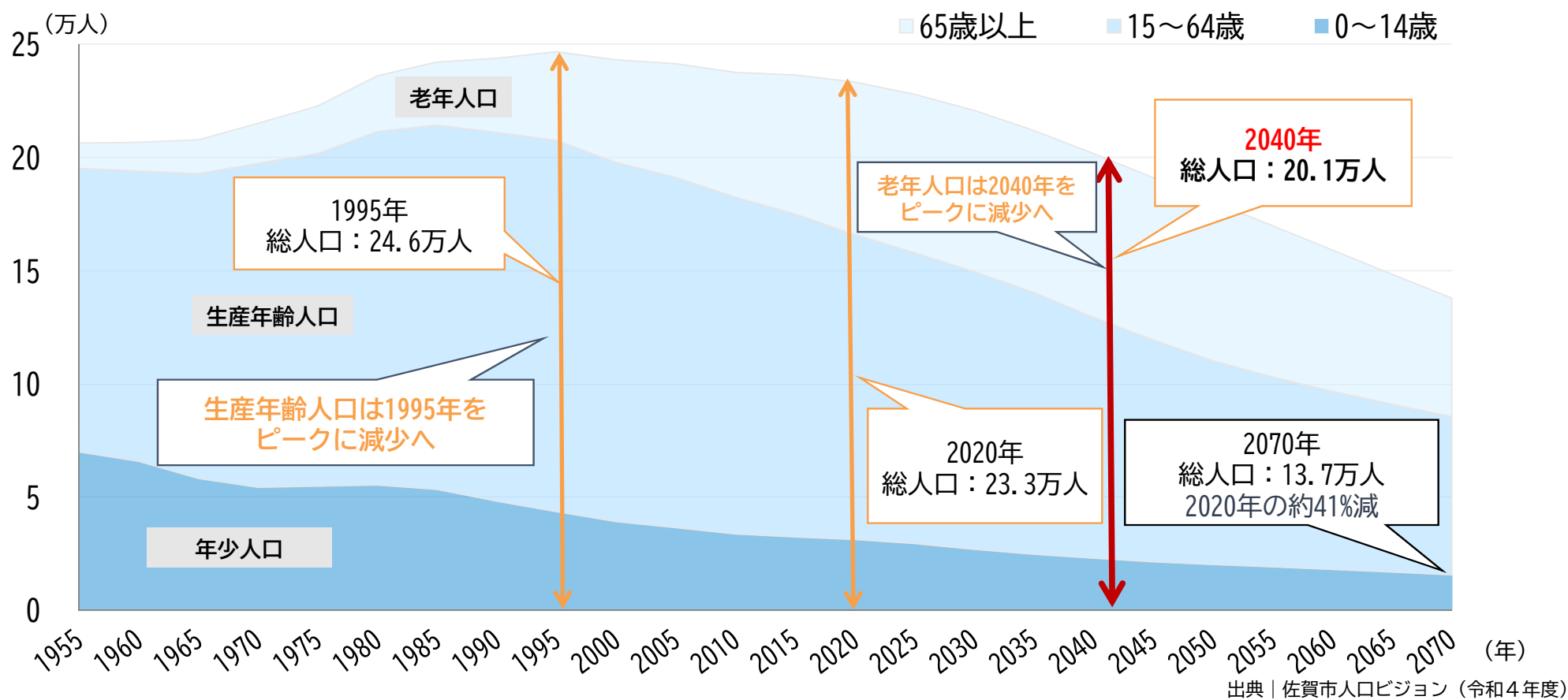


➤ 2040年の将来に向けて、何を行うべきかというバックカスティング思考で取り組む。

02 佐賀市総合計画／人口構造の変化と推移（将来推計人口）

ポイント

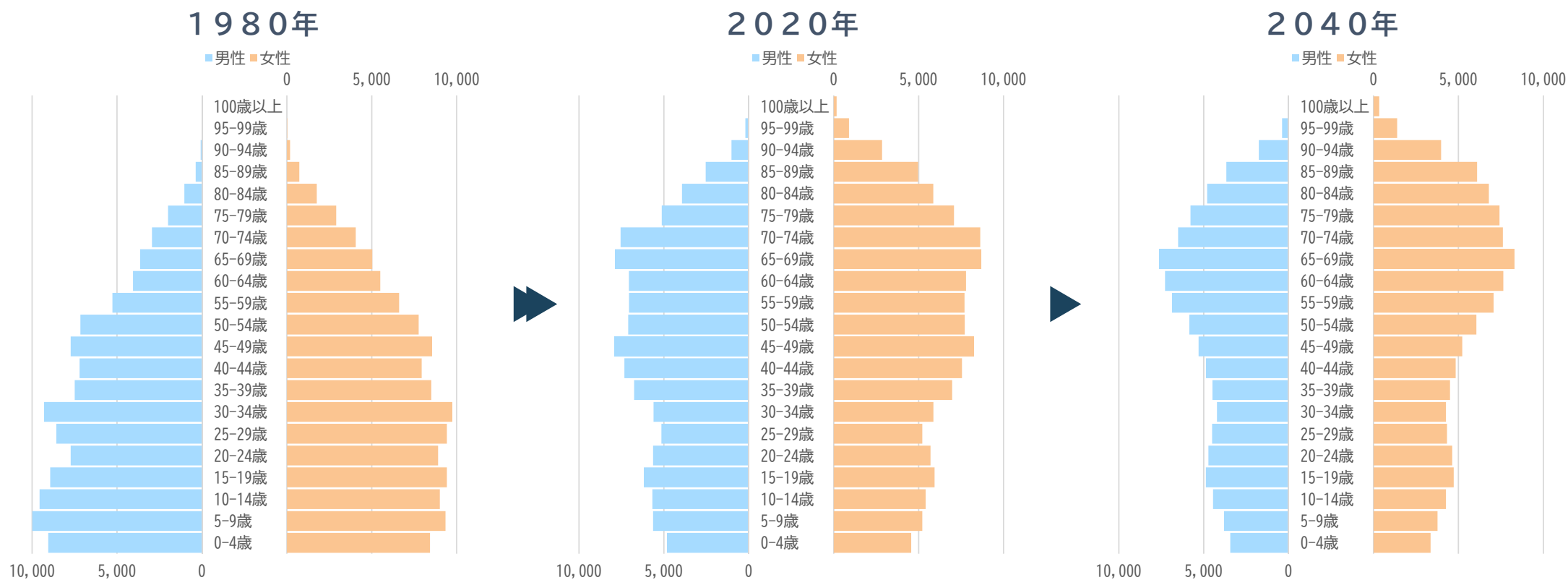
- 総人口は2040年に20.1万人と、2020年（23.3万人）比で14%減になると推計
- 年齢区分別では老年人口は増加を続けているものの、2040年にはピークを迎え減少へ転じる。



02 佐賀市総合計画／将来の人口構造等の展望（人口ピラミッド）

ポイント

- 2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となる。
- 人口の総量が減ると同時に人口構造が変化し、生産年齢人口約2人で1人の老年人口を支える構造（2020年）から、約1.46人で1人を支える構造となると推計

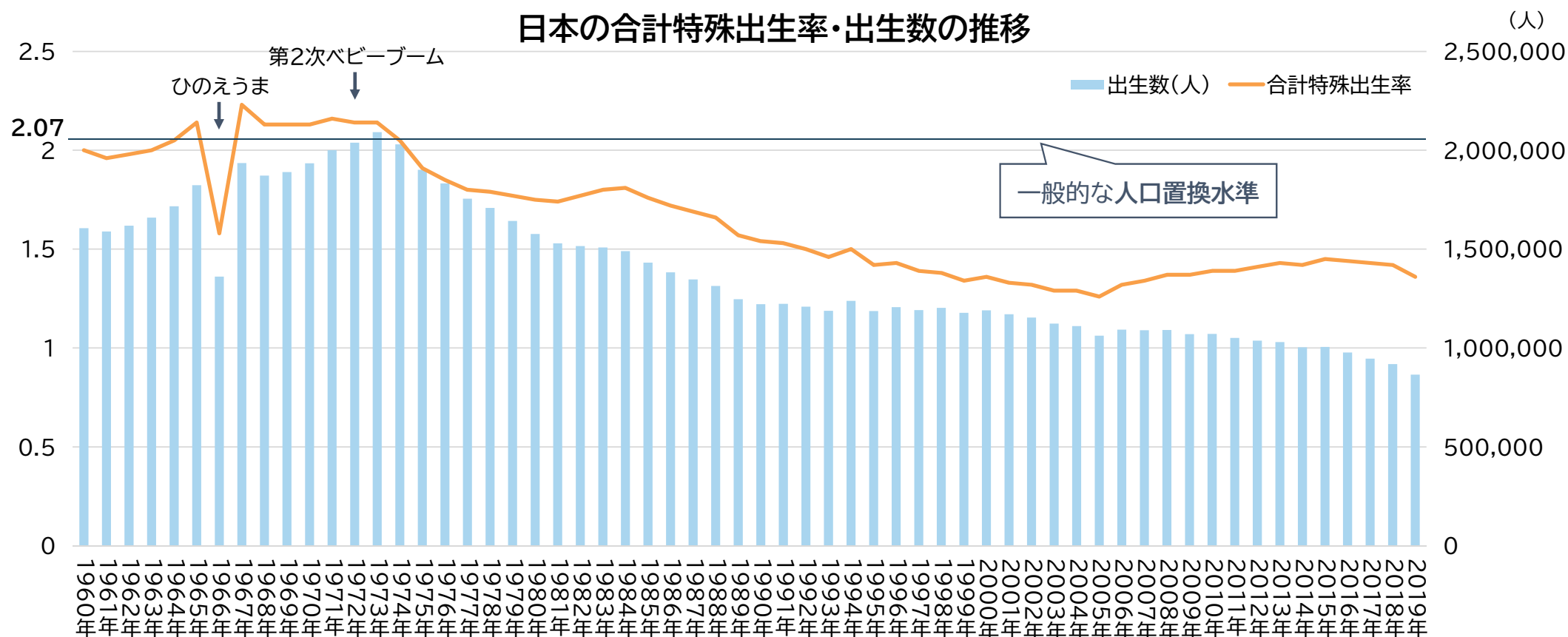


出典 | 佐賀市人口ビジョン（令和4年度）

02 佐賀市総合計画／人口構造の変化と推移（日本の合計特殊出生率）

ポイント

- 我が国の合計特殊出生率は、第2次ベビーブーム期（1971年-1974年、2.14程度）を最後に、50年間は2を下回っており、直近では1.20（2023年）となっている。



出典：厚生労働省「人口動態統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」

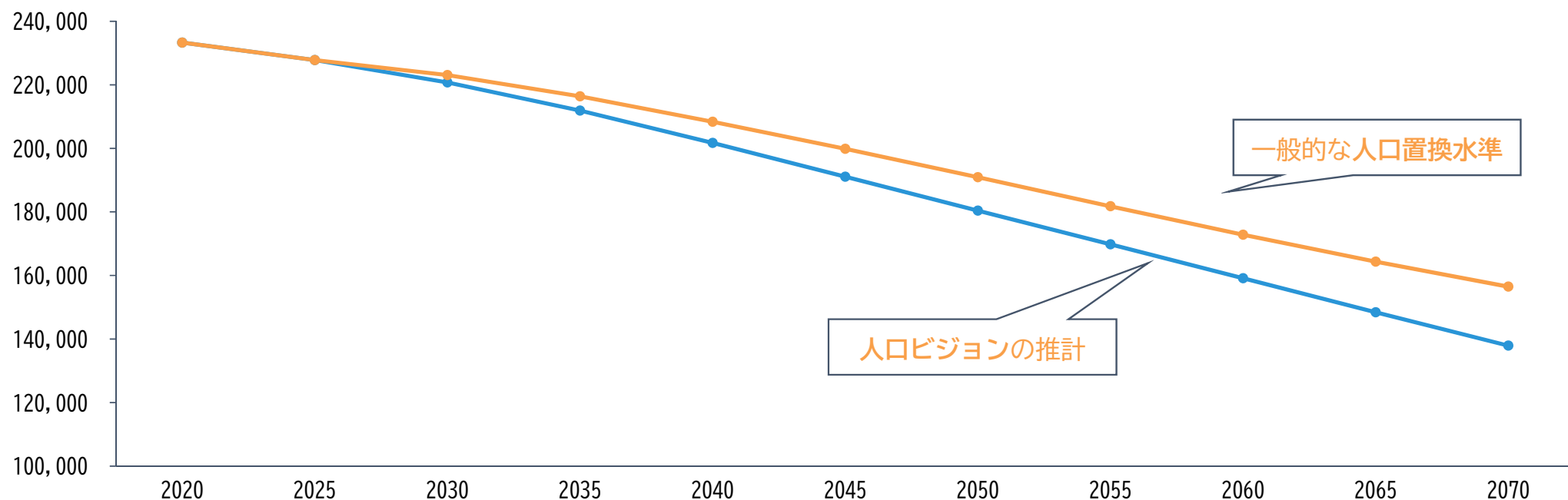
02 佐賀市総合計画／人口構造の変化と推移（出生率シミュレーション）

ポイント（速報値）

- 仮に出生率が、人口が将来にわたって増えも減りもせず、親の世代と同数で置き換わる水準（＝人口置換水準、2.07）まで上がっても、一定期間は人口減少が続く。
- 現在の人口水準を維持するためには、3.9程度の出生率が必要

佐賀市人口ビジョンにおける出生率のシミュレーション

● 出生率 1.61 ● 出生率 2.07



出典 | 佐賀市人口ビジョン（令和4年度）から推計

02 佐賀市総合計画／人口構造の変化と推移（人口置換水準について）

なぜ、出生率が人口置換水準まで上がっても、人口が減少し続けるのか？

前提：人口を維持or増加する条件

出生数 ≥ 死亡数

※自然増減のみを鑑みた場合



佐賀市の場合…

既に少子・高齢化が進んでおり、
高齢者の割合が多く生育年齢の人口の割合は少ない。



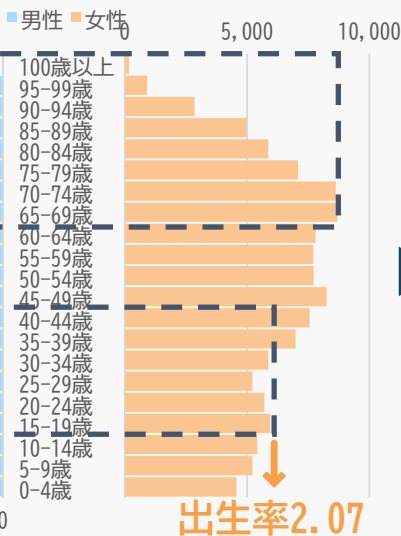
人口置換水準を達成した場合でも…

- 生育年齢の割合が少ないため、**高齢者の数を「置換」できない。**
- **高齢者割合が一定水準まで下がるまでは、人口減少が続く。**

人口置換水準（出生率2.07）を達成した場合の人口ピラミッド

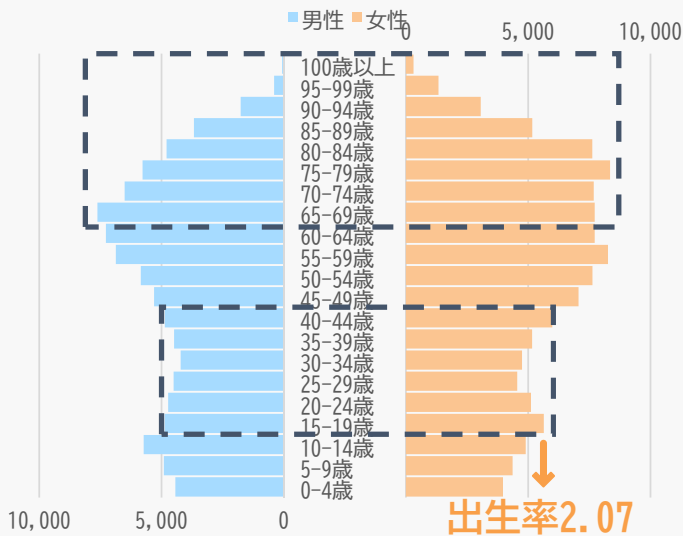
出典 | 佐賀市人口ビジョン（令和4年度）から推計

2020年



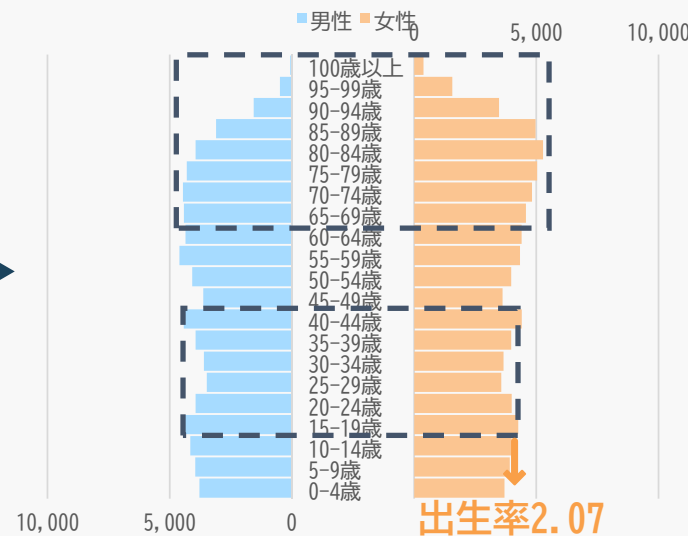
既に高齢者割合（団塊世代）が多い

2040年



団塊ジュニア世代が高齢者となる

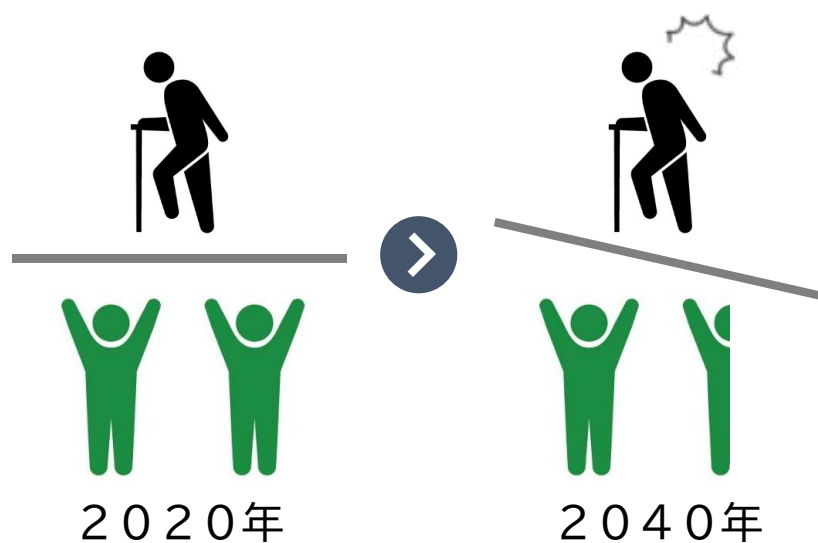
2070年



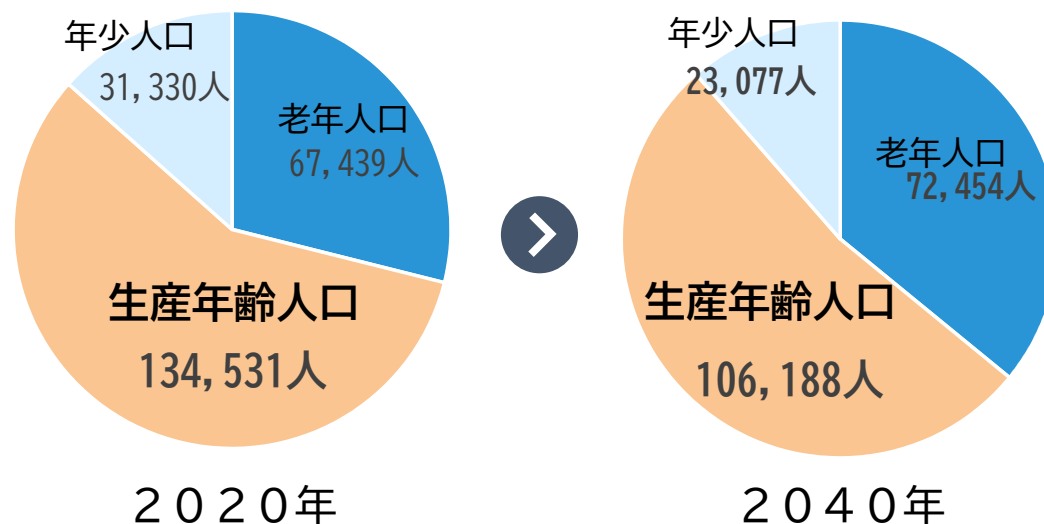
依然、高齢者割合が多く
人口減少は続く見込み

02 佐賀市総合計画／将来の人口構造等の展望（2040年の変化）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



働く人の減少が加速する



02 佐賀市総合計画／2040年に予想される変化

そのほかにも…



地域

- 地域のつながりの希薄化
 - 空き家の増加
- ↓
- 佐賀市の強みである「地域のつながり」を磨く取組が重要に



健康

- 高齢者率の増加
 - 医療費や社会保障負担の増加
- ↓
- 健康増進に向けた取組がさらに重要に



経済

- 需要全体が減少し、経済規模が縮小
- ↓
- 規模の経済だけに着目せず、経済循環を高めたり、商品の付加価値を高めたりすることが重要に



個人

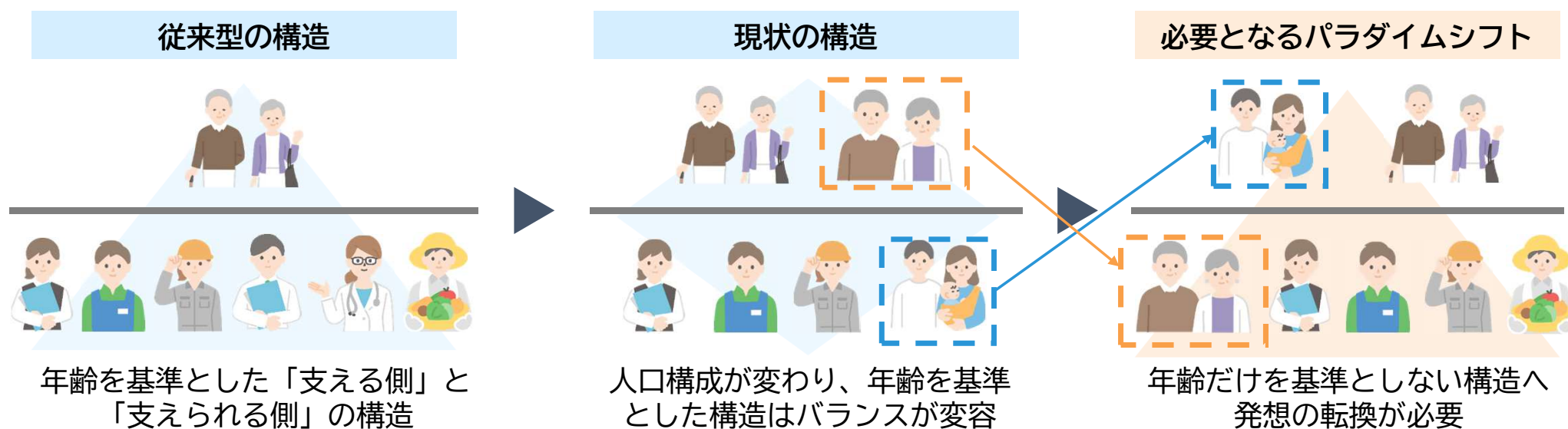
- 人口が減ることによって、一人ひとりの希少価値が相対的に高まる。
- ↓
- 一人ひとりの成長や担う役割に着目することが重要に

02 佐賀市総合計画／将来の人口構造等の展望（発想の転換）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



人口減少を踏まえた発想の転換



転換の内容

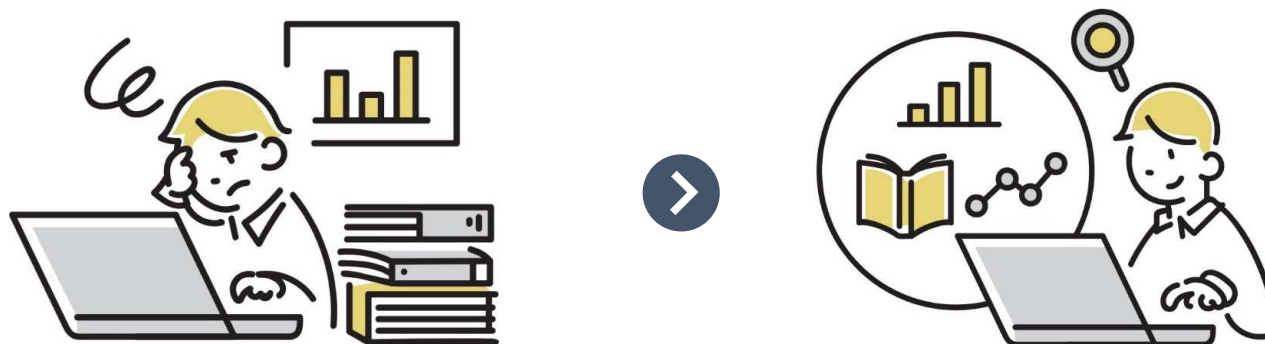
- 未来を担う子どもや子育て世帯を社会全体で支える構造への転換
- 健康増進等により、元気ではたらく意欲のあるひとは活躍できる就労環境 等

02 佐賀市総合計画／将来の人口構造等の展望（発想の転換）

働く人の減少が加速する

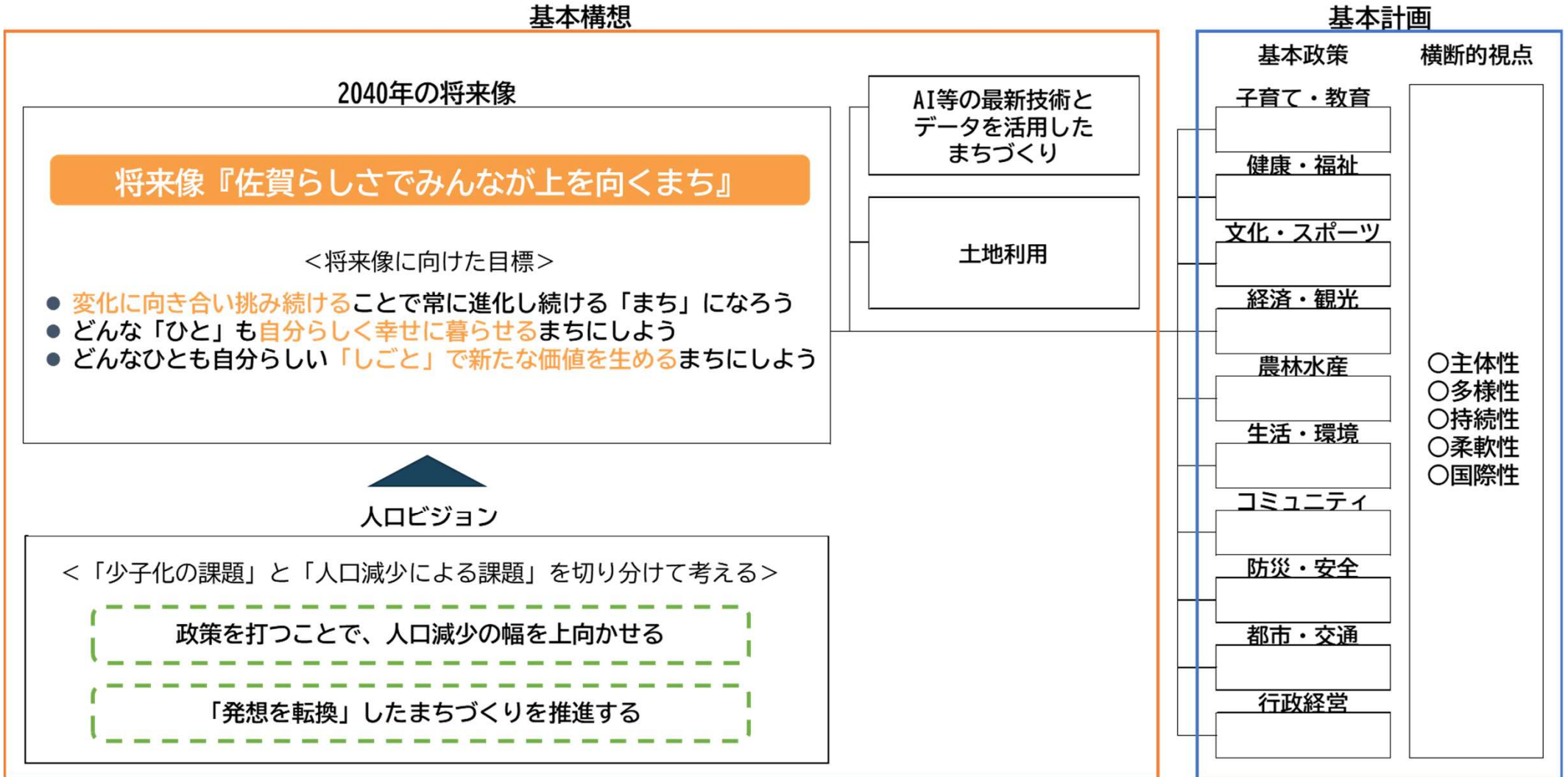


生産性向上や多様な働き方へ発想の転換



- AI等の最新技術やデータを活用することによる生産の自動化や情報の可視化・誘導
- 働く人に光を当て、自分らしい働き方ができるような社会の構築

02 佐賀市総合計画／基本構想 | 計画の体系図



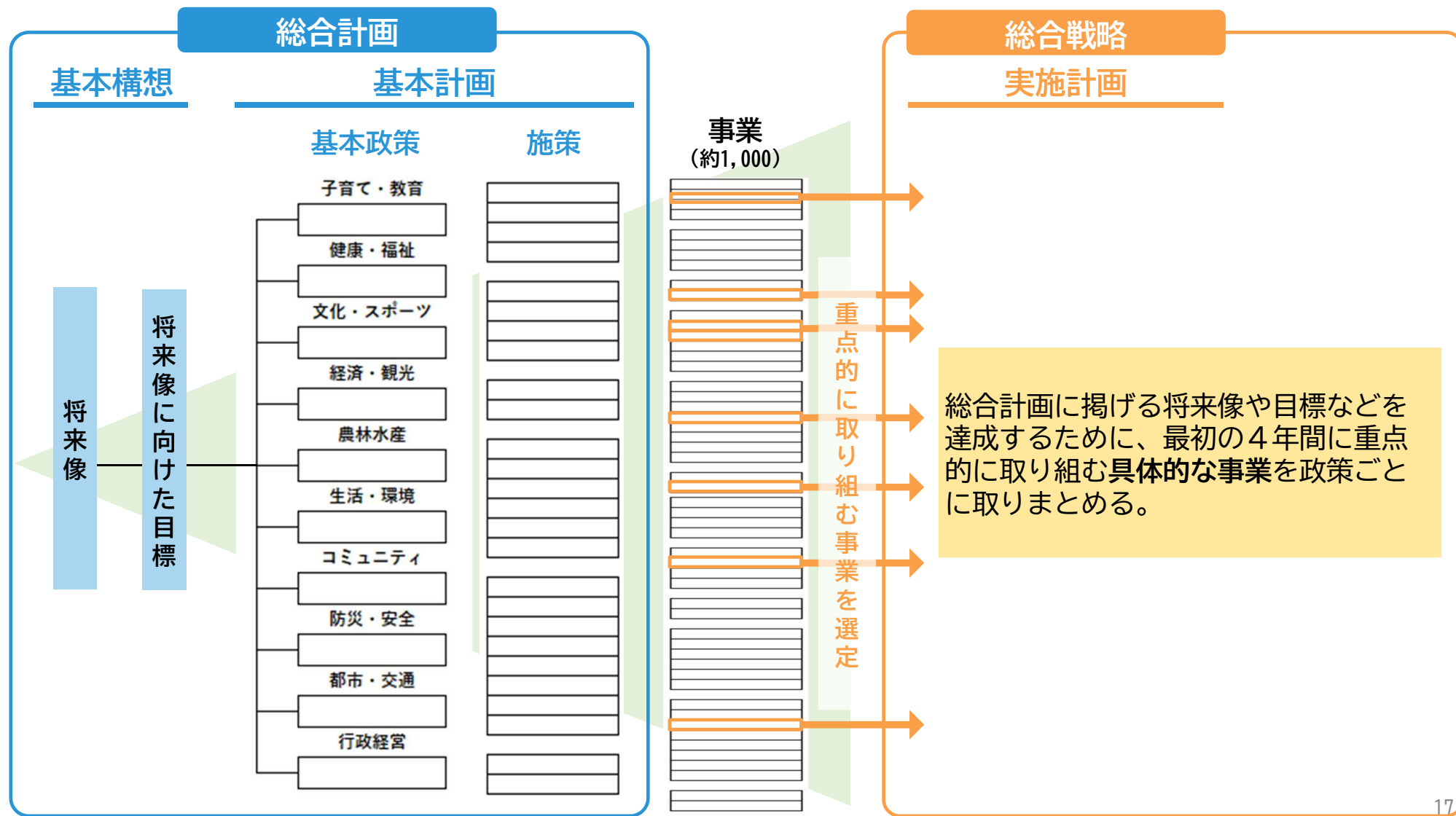
AI等の最新技術と
データを活用した
まちづくり

土地利用

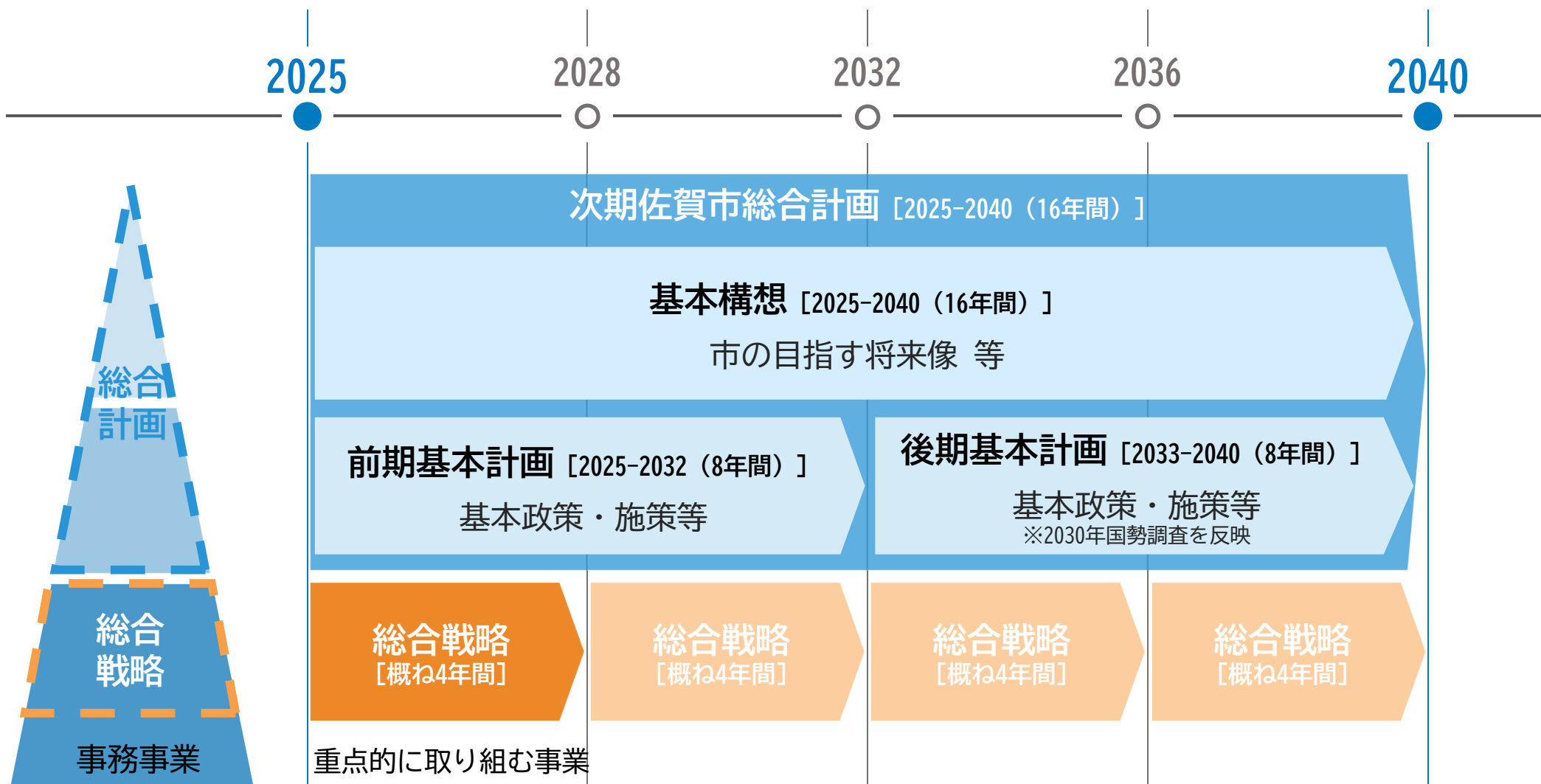
基本計画

基本政策	横断的視点
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性 ○多様性 ○持続性 ○柔軟性 ○国際性
健康・福祉	
文化・スポーツ	
経済・観光	
農林水産	
生活・環境	
コミュニティ	
防災・安全	
都市・交通	
行政経営	

03 次期総合戦略／次期総合計画に基づく取組の体系について



03 次期総合戦略／佐賀市の次期総合戦略の計画期間・位置付け



03 次期総合戦略／総合戦略骨子（案）

ポイント

- 10の政策にKPI等の指標を置き、進捗の管理を行う。
- KPIで表せない事柄は、Well being指標などを使って補完する仕組みを検討する。

- 序論
（趣旨・位置付け・期間等）
- DX
～なぜデジタル化が必要なのか～
- 目指す姿
～佐賀らしさでみんなが上を向くまち～

<将来像に向けた目標>

- 目標1
- 目標2
- 目標3

<目指す姿や目標達成のために行う10の政策>
（概念図挿入）

政策

- 政策01 子育て・教育
 - ・具体的な事業
- 政策02 健康・福祉
- 政策03 文化・スポーツ
 - （1）する・みる・ささえるスポーツの推進
 - ・具体的な事業
 - （2）文化の魅力を高め未来へ
 - ・具体的な事業
- 政策04 経済・観光
- 政策05 農林水産
 - （1）感動を与え、稼ぐ農業の実現
 - （2）森林を守り、育て、使う林業の発展
 - （3）活力ある水産業と豊かな海・有明海の共生
- 政策06 生活・環境
- 政策07 コミュニティ
- 政策08 防災・安全
- 政策09 都市・交通
- 政策10 行政経営

（KPI管理）

04 今後のスケジュール（案）

[R6年8月]

総合計画答申の提出

- 総合計画審議会 ⇒ 佐賀市長

[R6年9月～11月]

総合戦略（案）の作成

- まち・ひと・しごと創生推進会議開催
- まち・ひと・しごと創生推進会議での意見の聴取

[R6年12月]

総合計画 議決・総合戦略（案） 議会説明

- 総合計画の内容決定・総合戦略パブリックコメント実施のための議会説明

[R7年1月～2月]

総合戦略（案）に関するパブリックコメント実施

[R7年2～3月]

総合戦略 内容決定

- まち・ひと・しごと創生推進会議及びパブリックコメントの意見を基に修正し、内容を決定

05 意見交換のテーマ

Theme
01

避けられない人口減少に対し、どういうまちづくりを展開すべきか（発想の転換について）

Theme
02

未来を担う若者が、それぞれが望むライフコースを歩める満足度の高い佐賀市になるためには

Theme
03

今後、事業の重点化を行う上での視点について（どのような分野や政策に力を入れるべきか。）